

toVO トウゴ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 3



NO. **024**
20140311

あおもりの100家族、わたしたちのこれから。





インタビュー

今号のご家族 ▶ 藤田 耕次 さん・真由美 さん・茉那 ちゃん・実花 ちゃん

撮影場所 ▶ 八戸市八太郎

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶ 耕次さん「勤務先の八戸市庁は、2棟のうち、1棟を1994年12月の三陸はるか沖地震後に免震構造で建て直し、私はそちらにいたんです。免震ってわざと揺れる構造になっていて、揺れ方が普通と違う。ユーラユーラ…という横揺れが、強くなったり弱くなったりしながら、いつまでも続いて、『どうなってしまっただろう』と。その日は役所泊まり。」

●真由美さんは当時勤務地が青森市で、青森で茉那ちゃんと2人暮らしでした。▶ 真由美さん「私は用事を足しに出て、ちょうど目的地に着いたところ。車がグラグラッと揺れて、高台だったから『やたら風が強いな』と(笑)。でもなんか違う、と思って外に出たら地震。急いで用事を済ませて、『とにかく茉那を迎えに行かない』と戻ったんだけど、信号機がことごとく停電で、雪も結構降っていて、『早く保育園に着きたい、でも事故も怖い』と、運転に集中して。なんとか保育園に辿り着いたら、茉那は大泣きしていましたね。」

▶ 茉那ちゃん「そうだった？(笑)。揺れた時、先生が毛布をかぶせてくれて、その中に隠れてたの。おうちに帰ったら停電して、懐中電灯つけて。」 ▶ 真由美さん「キャンドルつけたりして、いつもと違う感じで茉那は楽しそうだったよね。停電だし、19時ごろには布団に入って。震災を受けて、翌日は朝7時の出勤になり、保育園が茉那を預かってくれなかったら、職場に連れて行こうと思ったけど、引き受けてくれたので、安心して仕事に行けました。」

●お互いの安否はすぐに確認できたんですか？

▶ 耕次さん「当時は青森に2人いて、私の母親が八戸市内で別に住んでいて、兄一家が仙台。基本はメールで、当日の夜ぐらいいまではみんな無事ということが分かって安心しました。でもそっち(青森など)がどういう状況か分からな

いので、心配でした。」 ▶ 真由美さん「あの時は茉那のことを考えると『八戸にいないで良かった』とも思いました。だけど、別々に暮らしていると、すぐに連絡もとれないし、様子も見に行けないし、不安ですよ。」

●震災後、家族で話し合いなどしましたか？

▶ 耕次さん「自宅は、震災で被害が大きかった八戸臨海工業地帯が近く、馬淵川の河口も近い。」 ▶ 真由美さん「地震が来たら、家の近くの高台の『八太郎ヶ丘公園』に逃げようと決めました。」 ▶ 茉那ちゃん「いすや座布団で頭を隠す。公園に逃げるの。1人で行ったことはないけど、(そばに)誰もいなかったら1人で行く。」 ▶ 耕次さん「茉那がこの4月に入学する根岸小学校(徒歩1分ほど)は『津波避難ビル』だしね。」 ▶ 真由美さん「防災セットも買って。今は実花の育児休業中で家にいるから、『地震が来たら、実花を連れて、持ち物は…』というシミュレーションを常にしてる(笑)。震災の時、妊婦さんとか、赤ちゃんがいた人は、避難所でも本当に大変だったろうと思います。」

●真由美さんのお仕事の都合で、今後も家族が別々に暮らす場合があるかもしれません。▶ 真由美さん「震災前から、離れて暮らしていても、毎日連絡を取り合っています。離れている時はしょうがないけど、みんな揃った時、濃密に過ごすようにしています。どこかに遊びに行くとかだけでなく、家にいる、普通の時間を大切にしよう。」

●10年後のイメージは？ ▶ 耕次さん「茉那は高校生、実花は小学校高学年。思春期の娘が2人いて『どうしよう…』という状況に陥っているかも(笑)。」 ▶ 茉那ちゃん「将来はケーキ屋さんになりたい。」 ▶ 真由美さん「どんな家族の形、住まい方をしているか分かりませんが、子どもたちが悩んでいるような時には聞いてあげたい。2人とも女の子だしね。」 **終**

定期購読のお申し込み 1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付金) / 1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。シーズン1(No.000~No.011 / 12号セット)は、1,500円で販売中です。

編集後記 震災発生時はお互いの仕事の都合で別々に暮らしていた耕次さんと、真由美さん・茉那ちゃん。家族の歴史を紡ぐうちには、きついろいろんことがある。寄り添い合っていくすべを、常に、でも気負いなく考えているようで、頼もしかったです。取材をした2月16日は、八戸市で観測史上最多の積雪60センチを記録した日。八戸らしからぬ、雪深い風景を背にした家族写真となりました。【前田ふと】

東日本大地震・津波被災者チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月~2014年2月28日まで

¥2,209,033

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



今号のご家族▶藤田耕次さん・真由美さん・茉那ちゃん・実花ちゃん
撮影場所▶八戸市八太郎

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶耕次さん「勤務先の八戸市庁は、2棟のうち、1棟を1994年12月の三陸はるか沖地震後に免震構造で建て直し、私はそちらにいたんです。免震ってわざと揺れる構造になっていて、揺れ方が普通と違う。ユーラユーラ...という横揺れが、強くなったり弱くなったりしながら、いつ

までも続いて、『どうなってしまうんだろう』と。その日は役所泊まり。」

●真由美さんは当時勤務地が青森市で、青森で茉那ちゃんと2人暮らしでした。

▶真由美さん「私は用事を足しに出て、ちょうど目的地に着いたところ。車がグラグラッと揺れて、高台だったから『やたら風が強いな』と（笑）。でもなんか違う、と思って外に出たら地震。急いで用事を済ませて、『とにかく茉那を迎えに行かないと』と戻ったんだけど、信号機がごとごとく停電で、雪も結構降っていて、『早く保育園に着きたい、でも事故も怖い』と、運転に集中して。なんとか保育園に辿り着いたら、茉那は大泣きしていましたね。」

▶茉那ちゃん「そうだった？（笑）。揺れた時、先生が毛布をかぶせてくれて、その中に隠れたの。おうちに帰ったら停電してて、懐中電灯つけて。」

▶真由美さん「キャンドルつけたりして、いつもと違う感じで茉那は楽しそうだったよね。停電だし、19時ごろには布団に入って。震災を受けて、翌日は朝7時の出勤になり、保育園が茉那を預かってくれなかったら、職場に連れて行こうと思ったけど、引き受けてくれたので、安心して仕事に行けました。」

●お互いの安否はすぐに確認できたんですか？

▶耕次さん「当時は青森に2人いて、私の母親が八戸市内で別に住んでいて、兄一家が仙台。基本はメールで、当日の夜ぐらいいまではみんな無事ということが分かって安心しました。でもそっち（青森など）がどういう状況か分からないので、心配でした。」

▶真由美さん「あの時は茉那のことを考えると『八戸にいなくて良かった』とも思いました。だけど、別々に暮らしていると、すぐに連絡もとれないし、様子も見に行けないし、不安ですよ。」

●震災後、家族で話し合いなどしましたか？

- ▶耕次さん「自宅は、震災で被害が大きかった八戸臨海工業地帯が近く、馬淵川の河口も近い。」
- ▶真由美さん「地震が来たら、家の近くの高台の「八太郎ヶ丘公園」に逃げようと決めました。」
- ▶茉那ちゃん「いすや座布団で頭を隠す。公園に逃げるの。1人で行ったことはないけど、（そばに）誰もいなかったら1人で行く。」
- ▶耕次さん「茉那がこの4月に入学する根岸小学校（徒歩1分ほど）は『津波避難ビル』だしね。」
- ▶真由美さん「防災セットも買って。今は実花の育児休業中で家にいるから、『地震が来たら、実花を連れて、持ち物は...』というシミュレーションを常にしてる（笑）。震災の時、妊婦さんとか、赤ちゃんがいた人は、避難所でも本当に大変だったろうと思います。」

●真由美さんのお仕事の都合で、今後も家族が別々に暮らす場合があるかもしれません。

- ▶真由美さん「震災前から、離れて暮らしていても、毎日連絡を取り合っています。離れている時はしょうがないけど、みんな揃った時、濃密に過ごすようにしています。どこかに遊びに行くとかだけでなくて、家にいる、普通の時間を大切にしよう。」

●10年後のイメージは？

- ▶耕次さん「茉那は高校生、実花は小学校高学年。思春期の娘が2人いて『どうしよう...』という状況に陥っているかも（笑）」
- ▶茉那ちゃん「将来はケーキ屋さんになりたい。」
- ▶真由美さん「どんな家族の形、住まい方をしているか分かりませんが、子どもたちが悩んでいるような時には聞いてあげたい。2人とも女の子だしね。」

【編集後記】震災発生時はお互いの仕事の都合で別々に暮らしていた耕次さんと、真由美さん・茉那ちゃん。家族の歴史を紡ぐうちには、きっといろんなことがある。寄り添い合っていくすべを、常に、でも気負いなく考えているようで、頼もしかったです。取材をした2月16日は、八戸市で観測史上最多の積雪60センチを記録した日。八戸らしからぬ、雪深い風景を背にした家族写真となりました。【前田ふひと】

【寄付総額】2011年6月～2014年2月28日まで、「¥2,209,033」を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。